

点引き続き、調査の継続が必要と思われる。

しかしながら少なくとも上記の調査地点においては、ヒラタクワガタの生息密度はほかの2種に比べて明らかに小さく、ノムラホイホイによる発生調査に大きく影響する可能性はない。むしろなぜヒラタクワガタだけが低い密度で出現しているのかという点に興味を持たれる。

皇居内でヒラタクワガタが継続的に発生しているとすると、他の2種や他の大型甲虫とどのように、生態的な行動を異にしているのか、他の種との競合関係がどうであるのか、今後明らかにされるべきであろう。

また、カブトムシやアオオサムシのような他の大型甲虫が、皇居内に生息しているタヌキヤハクビシン、カラスなどの天敵に捕食され、いわゆる淘汰圧を受けていることは明らかである。それではヒラタクワガタはそれらと同様な状況にあるのか、あるいはより強い淘汰圧を受けた結果、生息密度が低くなっているのか、今後検証されるべきと思われる。

謝辞

本研究に多大な協力をいただいた、宮内庁庭園課の北沢克巳課長はじめ課員の皆様は厚く御礼申し上げます。また、トラップ調査の実施についてご助力賜った東京農業大学昆虫学研究室の小島弘昭教授ならびに学生諸氏に厚く感謝の意を表す。

引用文献

- 野村周平・平野幸彦・斉藤明子・上野俊一・渡辺泰明, 2000. 皇居の甲虫相. 国立科学博物館専報, (36): 185-255.
 野村周平・上條哲也・市野澤慎, 2006. 皇居における空中浮遊性甲虫の多様性と動態—2004年度地上FITによる調査. 国立科学博物館専報, (43): 187-240.
 野村周平・小島弘昭・佐藤 尊・村木朝陽・神崎太郎・原田博史, 2010. 皇居吹上御苑における大型甲虫4種の季節消長と高度差による比較—特にサブキャノピー層に注目して. 日本昆虫分類学会第13回大会講演要旨, 国立科学博物館, 東京都新宿区, p. 2.

(2012年10月6日受領, 2012年11月25日受理)

【短報】カノコヒラタケシキスイを秋田県で採集

カノコヒラタケシキスイ *Epuraea (Epuraea) fuscicollis* (Stephens, 1832) は、北海道倶知安町において本邦初記録となったケシキスイである (Kashizaki & Hisamatsu, 2011). 本種は、国外ではモロッコ、チェンジアなどアフリカ北部やイラン、ロシア等の国々に産し、ヨーロッパではブナ科コナラ属の樹種の樹液に集まる。柏崎氏によれば、本種は比較的得やすい種で、北海道ではバナナトラップが有効とのことである。筆者は秋田県で本種を得ているので報告する。



図1. 秋田県産カノコヒラタケシキスイ.

1ex., 秋田県仙北市田沢湖玉川戸瀬, 9. VII. 2005 (筆者採集・保管・写真); 4exs., 同, 17. VII. 2005 (筆者採集・保管); 3exs., 同, 3. VI. 2006, (同); 22exs., (筆者採集・22exs.のうち12exs.は筆者, 他は柏崎氏保管), 1. VI. 2007, (同); 6exs., 同, 17. VI. 2007, (同);

3exs., 17. V. 2009 (同).

体長は2.5~2.7 mm. 前胸背板中央の黄紋部分

の幅が広がり、上翅会合線付近に上下に列ぶ2つの黄紋が繋がったりする個体があるなど、斑紋には変異が認められた。2007年採集の2例は、ペットボトルを使用したバナナトラップで、他はミズナラの樹液から採集した個体である。

末筆ながら、報告に際し本種の同定および国内での知見をご教示いただき、学名の確認でご配慮いただいた柏崎昭氏に厚くお礼申し上げます。

引用文献

- Kashizaki, A. & S.-T., Hisamatsu, 2011. New distribution records of two sap beetles (Coleoptera, Nitidulidae) from Hokkaido, Japan. *Elytra*, Tokyo, New Series, 1(1): 163-165.

(沼田 仁 011-0903 秋田市寺内油田 3-9-13)